熱　海　新　聞　　平成22年10月24日（日曜日）

伊豆路

熱海の竹文化 紹介する楽しみ

中井　正勝

伝統的な文化、文化財はもとより、新たな文化を生み出すことにチャレンジすることも求められています。

地場産の素材を使った「イカメンチ」はネーミングも新鮮で、食べてみたいという衝動に駆られます。これも大切な文化だと思う次第です。忘れ去られた文化を復活させることも一つの手段として、考えてもよいのではないでしょうか。

文化を求めて探索していると、素晴らしい出合いをすることもあります。

自然の恵みでもある竹は、その利用価値の衰退から野ざらし状態になっていますが、ある方の自宅を訪問したおりに目にしたのは、巧妙に作られた竹製品の数々。年がいもなく興奮しました。

郷愁を駆られるもの、アイデアの結晶ともいえる多種多彩な細工品には「らしさ」があり、感動的でもありました。「遠慮なくお持ち帰り下さい」この言葉に再び感動しました。

旧日向別邸には欧米からの来客がありますが、熱海らしさを紹介できるようなものは一切なく、ワンパターンな接客を打開すべく探索していた矢先だったのです。熱海の竹文化を紹介する楽しみが増えました。

ちなみに、旧日向別邸社交室には、真竹の手すり、真竹の格子、白竹が詰張りされた壁、垣根風に曲げられた階段の手すり、天井からつり下げられた煤竹、鎖状に曲げられた黒竹の先には裸電球がぶら下がっている。まさしく竹の部屋なのです。竹に感動された来訪客に、熱海の竹細工をぜひとも紹介したい。

参考に、市内にある文化施設の利用状況を紹介します。一日あたりの入館者数（2007年3月現在）。

起雲閣＝315人▽澤田政廣記念美術館＝52人▽伊豆山郷土資料館＝12人▽池田満寿夫・佐藤陽子創作の家＝23人▽池田満寿夫記念館＝7人▽彩苑（杉本苑子旧居）＝2人▽凌寒荘（佐佐木信綱旧居）＝11人▽旧日向別邸（申し込み制）＝29人

一人でも多くの人の来観をお待ちしています。

（旧日向別邸保存会会長）